

通し番号	5149
------	------

分類番号	R04-24-12-8
------	-------------

イチゴ‘かなこまち’の高設栽培における株間が収量に及ぼす影響	
[要約] ‘かなこまち’の高設栽培において、株間 15cm では小葉長や小葉幅が小さく、葉柄長は長く、草高は高くなり、株間 25 cmでは頂果房及び第一腋花房の収穫始期がやや早まる。また、株間 15cm から 25cm の範囲では、株間が広いほど 1 株当たりの果実数及び可販果収量が多くなる一方、株間が狭いほど 10a 当たりの可販果収量は多くなる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

株間は、単位面積当たりの収量や品質に大きく影響することが知られているが、当所育成品種の‘かなこまち’については明らかになっていない。そこで、高設栽培における株間が生育及び収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 株間15cm区では、株間20cm区及び株間25cm区と比較して生育期間を通じて小葉長や小葉幅が小さく、葉柄長が長く、草高は高くなり、徒長気味の生育となる。株間20cm区及び株間25cm区の生育は同程度である（表1）。
- 2 頂果房の開花始期、収穫始期及び第一腋果房の収穫始期は、株間 25 cm区でやや早まる傾向である（表2）。
- 3 1株当たりの総果数及び1株当たりの可販果収量は株間が広いほど増加するが、10a 当たり可販果収量は株間が狭いほど多く、株間 15cm 区が 8.9t と最も多い。10a 当たり早期収量も同様に、株間が狭いほど多い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 花芽分化確認後、ベッド幅 130cm、条間約 30cm の 2 条千鳥植えとし、9月22日に定植した。
- 2 ヤシガラ培地を用い、廃液 EC が 50mS/cm になるように給液 EC を調整した。また、日の出～日の入りまで CO₂ 濃度を 750～800ppm で管理し、日中の飽差が 5～7 g/m³になるように細霧発生装置を稼働した。
- 3 収穫調査は5月31日まで実施し、単位面積当たりの収量は、栽植本数を株間15cm区が 10,256株/10a、株間20cm区が7,692株/10a、株間25cm区が6,153株/10aとして試算した。
- 4 芽の管理は、地中から発生する芽（ドロ芽）及び下位葉から発生する弱い脇芽は切除し、それ以外の芽は放任とした。

[具体的データ]

表1 株間が生育に及ぼす影響

試験区		10月22日				12月8日				2月16日			
品種	株間	小葉長 (cm)	小葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	草高 (cm)	小葉長 (cm)	小葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	草高 (cm)	小葉長 (cm)	小葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	草高 (cm)
かなこまち	15cm	10.1	7.3	18.3	22.2	10.8	8.2	19.6	31.3	11.0	8.5	20.1	27.8
	20cm	11.7	8.6	16.8	22.3	11.8	8.7	16.6	26.5	12.3	8.6	16.6	25.7
	25cm	11.0	8.0	15.1	21.7	11.7	8.7	16.4	27.4	12.0	8.8	17.8	26.1
紅ほっぺ	20cm	10.6	7.3	17.3	21.0	12.3	8.8	18.9	25.5	12.1	8.4	18.3	19.1

表2 株間が開花始期及び収穫始期に及ぼす影響

試験区		頂果房	頂果房	第一腋果房
品種	株間	開花始期 ^z	収穫始期 ^y	収穫始期 ^y
かなこまち	15cm	11月22日	12月31日	2月8日
	20cm	11月22日	12月27日	2月8日
	25cm	11月18日	12月27日	2月4日
紅ほっぺ	20cm	11月10日	12月17日	2月14日

z：調査株の過半数が開花した日

y：調査株の過半数が収穫を開始した日

表3 株間が収量に及ぼす影響

試験区		総収量	総果数	可販果	早期	1株当たりの
品種	株間	(t/10a)	(個/株)	収量 ^z (t/10a)	収量 ^y (t/10a)	可販果収量 (g/株)
かなこまち	15cm	9.4	59.1 b ^x	8.9	3.5	867 b ^x
	20cm	8.5	66.1 ab	8.2	2.9	1069 ab
	25cm	8.1	78.2 a	7.8	2.8	1275 a
紅ほっぺ	20cm	9.8	88.8	9.0	3.7	1164

分散分析^w

z:7g以上のA品及びB品を可販果とした。

y:12月～2月の可販果収量の合計。

x:Tukey-Kramer法により、異なる英文字間に5%水準で有意差あり。

w:分散分析により、*は5%水準で有意差あり、-は未検定。

[資料名] 令和4年度試験研究成績書
 [研究課題名] 肥培管理技術の開発～株間の検討(高設栽培)～
 [研究期間] 2021(令和3)年度～2025(令和7)年度
 [研究者担当名] 下 菌 健志
 [協力・分担関係]